



広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.
2016

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 田中 健志
幹 事 金本 善行

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ Building Communities Bridging Continents

「地域を育み、大陸をつなぐ」

本年度会長テーマ

「ロータリーを楽しもう」

「世界理解月間」

2011年2月10日 第1992回例会

◆ 会長時間 ◆

梶川副会長



皆さま、今日は。本日は田中会長が所用にて欠席ですので代行してご挨拶申し上げます。2月は「世界理解月間」と指定されています。また、本日は、世界理解月間に深く

関連する核の脅威とわが広島の役割についての卓話を拝聴する機会にめぐまれております。

さて、1905年2月23日はポール・ハリス、ガスターバス・ローア、シルベスター・シール、ハイラム・ショーレーの4人がシカゴで初めて会合を開いた日であり、この日はロータリーの創立記念日です。この創立記念日を「世界理解と平和の日」と定め、そしてこの2月23日から始まる1週間を「世界理解と平和週間」と呼び、ロータリーの奉仕活動を強調することが決議されました。

以下はインターネットから検索したもののコピーです。

ロータリーにおける世界理解と平和の探究：

ロータリーは友愛の心で結ばれた4人の会合に始まりましたが、3年後にはサービスの概念が導入され、今では世界166ヶ国の地域に広がり、クラブ数31,000以上、会員総数およそ120万人という大きな奉仕組織に発展しました。

1921年、スコットランドのエジンバラ国際大会

において、「ロータリーの綱領」の中に「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること」という第4項が組み入れられ、その後世界中のロータリアンは色々なプログラムで世界平和について視野を広め、平和への情熱を声高く表明してきました。

しかしながら、1945年以来、120を超える深刻な武力紛争が世界各地の国を荒廃させ、2,500万人以上の人々が犠牲になっています。そして、今日に至るまで、中東を中心に民族や宗教上の対立、貧困や差別、抑圧への反抗などによる紛争やテロの種はつきません。

国際ロータリーでは、国際的な政治問題に対する団体声明を出すことは禁じられていますが、平和と正義の原則に基づき国際的難問を平和交渉によって解決するために、自己の影響力を行使することはすすめられています。

さて、今月28日、台南ロータリークラブの会員が多数、広島に来られます。姉妹クラブ友好委員会からスケジュール等に関する詳しい会報告があると思いますが、田中会長から「27日空港およびANAホテルはできるだけ多くの会員、28日の調印式には皆さんご多用でしょうが、メンバーの半数以上のご出席をお願いします」と伝言がありました。どうかよろしく願いいたします。以上で会長時間といたします。ご清聴ありがとうございました。

米山功労者に感謝状の伝達



第4回マルチプル 竹本 盛男 会員

● 会務報告

金本幹事

※在広14RC合同懇親ゴルフ大会のご案内
※拉致被害者家族連絡会に対する支援金の協力依頼があり、先の理事会で承認されましたので、本日例会中に募金箱をまわします。お気持ちのほどをご協力いただければ幸いです。
※本日は100万ドルの食事です。

● 委員会報告

出席報告 長谷川委員

本 日 (2月10日・木曜日)
 会員数 83名 出席者 72名
 欠席者 11名 ご来客 0名
 ご来賓 1名 ゲスト 1名
 計 74名
 前々回(1月27日・木曜日)
 出席率 100%



※ 姉妹クラブ友好委員会 上野委員長 台南RC・広島西RC姉妹クラブ 再締結調印式のご案内

1993年に姉妹クラブ締結以降、台南RCと広島西RCは何度となくお互いに訪問し合い、友好の輪を広げて参りました。この度、2011年5月11日に姉妹クラブ締結期間(3年)の満了を迎えることから、下記の日時に台南RC有志が来広され、再締結の調印式を行うこととなりました。何卒式へのご出席賜りますようお願い申し上げます。

日 時 2011年2月28日(月) 10:00~11:00
 場 所 ANAクラウンプラザホテル広島
 出席義務者 クラブ協議会メンバー及び姉妹クラブ委員会

※ 親睦活動委員会 垂井委員長

創立41周年記念夜間例会ご案内

3月7日は当クラブの創立41周年の記念日に当たります。
 つきましては、3月3日(木)の例会を夜間に変更し、当クラブの誕生日を祝うと共に会員相互理解・結束を強めたいと存じますので、是非ご出

席下さいますようご案内申し上げます。

※ 会報雑誌・広報委員会 宇田会員

ロータリーの友誌紹介

※ 香川(基)次年度幹事

例会終了後、4階「松の間」において次年度第2回理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

● 同好会報告

回 囲碁同好会

小田世話人

2011年2月5日、三菱ダイヤモンドホテルにおいて、毎年恒例の西南RCとの対抗戦が開催されました。

当日は、西RCから、特別会員を含めて7名が参加し、西南RCも7名が参加し、勝ち星総数26対7という結果で、西RCの団体優勝となりました。また、個人賞は、特別会員の北村さん、三原さんと現役会員小田の3名が、勝率10割で、年齢順により、三原さんが1位、北村さんが2位、小田が3位という結果となりました。また、懇親会での恒例となっている連碁は、西南RCの中押し勝ちとなりました。囲碁は、親の死に目にも会えないと言われるくらいやっていると楽しいゲームですので、皆様も同好会に参加されてゲームを楽しんでいただければ幸いです。

祝 連続出席100% (6名)

篁 君 (8年)	梶本君 (6年)
岡田君 (6年)	原 君 (5年)
小田君 (2年)	香川(浩)君 (2年)

● スマイルボックス

SAA 木本委員長

☺ 小田清和君 (自主申告) ダブル

2月5日、毎年恒例の広島西南RCとの囲碁対抗戦が行われ、わが西クラブから特別会員を含めて7名、西南からも7名が参加して覇を競った結果、わがクラブが勝ち数26対7で圧勝しました。個人戦はわがクラブで勝率10割が3人、年齢順でOBが1、2位、私が3位となりました。更なる精進を誓ってダブルで出宝させていただきます。

☺ 木本弘三君 (自主申告) ダブル

本日、斉藤昭一君から西クラブのオリジナルネクタイ4本のご提供があり、そのうちの1本を貰い受けました。有難うございました。

☺ 森脇宗彦君 (2月4日 中国新聞)

住吉神社では3日、節分の「焼嗅がし」神事が盛大に行われました。巫女4人が約千匹のイワ

シの頭を網の上で焼き、その煙で鬼を退治し、災厄を追い払うもので、煙を浴びて悪鬼が退散するごとに約800人の参詣者から大きな歓声が上がりました。今年も鬼退治をよろしく願います。

☺ **上野純一君、池田巧君**（2月8日 中国新聞）
宮島口商店会は宮島口桟橋周辺の商店街マップを作成し、家族連れや若い女性たちをターゲットに街歩きに役立ててもらうことにしました。もみじ饅頭店やカキ販売店、アナゴ料理店など36店を掲載。商店会の上野副会長は「観光客に立ち寄ってもらえるように、魅力をさらアピールしていきたい」と話しています。地域振興に一層のご活躍を祈ります。

☺ **高橋正君**（2月6日 中国新聞）
2月5日、アジア刑政財団広島支部の発会式が市内のホテルで開催され、支部長に高橋君が就任されました。同支部の今後の活動を大いに期待しております。

☺ **紫雀会1月例会関係**
栄えある優勝の岡田有博君はダブルで、2位の木本弘三君、3位の中村哲朗君もご出宝をお願いします。

■ 卓 話

続く核脅威と 被爆地広島役割



中国新聞社 特別編集委員兼
ヒロシマ平和メディアセンター長

田城 明氏

みなさん、こんにちは。かつてのロータリー奨学生として、こうしてみなさんの前で話す機会を与えられたことを大変うれしく思っています。25年前の1986年に、米東部タフツ大学大学院のフレッチャー国際法律・外交スクールに留学し、核問題をはじめ、日米やアジアとの関係などについて系統的に学べたことは大きな収穫でした。ジャーナリストとしてここまでやってこられたのも、このときの留学体験がバックボーンになっていると強く感じています。あらためてロータリアンのみなさんに感謝する次第です。

さて、本題に入りますが、ここ数年、世界的に見ると核軍縮・廃絶への機運は高まっています。「核なき世界の実現を目指す」と訴えた2009年4月のオバマ米大統領の演説。核兵器の非人道性をうたい、核兵器禁止条約の交渉提案などを盛り込

んだ昨年5月の核拡散防止条約（NPT）再検討会議での最終文書の採択。さらに今月5日には、米口間で新戦略兵器削減条約（新START）が発効しました。これから7年以内に、配備戦略核弾頭を1550、ミサイルなどの配備運搬手段を800までそれぞれ削減しようというものです。

これらの動きは良い兆候です。しかし、米口両国だけでもなお未配備の戦略核弾頭や、戦術核弾頭などを合わせると約2万発の核弾頭が残っています。配備された核弾頭は、常に高い警戒態勢にあり、一触即発状態に置かれているのです。

一例を挙げましょう。米国は現在、戦略ミサイル原子力潜水艦を18隻保有しています。最新鋭艦はトライデント型ミサイル（多弾頭水中発射型）を24基装備しており、ミサイル1基につき最大14個まで核弾頭が搭載できるとされています。実際は8個、新STARTの発効でその数はさらに削減されるでしょう。搭載する核弾頭（水爆）の威力は100～475キロトン（広島型の約7倍～約32倍）。仮に24基のミサイルにそれぞれ8個の水爆（475キロトン）が搭載されているとしたら、全部で192個、広島型の6千倍以上の威力となります。みなさんの中には、66年前の原爆の惨禍を体験された方もおられるでしょう。1個の水爆の威力だけでも想像を絶する破壊がもたらされます。ところが、現実には、広島型原爆の何百倍、何千倍という破壊力をもった原子力潜水艦が、常時海中を潜水航行しているわけです。射程も1万1千キロと、今では大陸間弾道弾（ICBM）並みになっています。

コンピューターの故障や人為的ミスなど偶発的な要因で発射されないとも限りません。いったん発射される、あるいは発射されたと仮想敵国のレーダーに認識されれば、目標到達までにICBMで約30分、原潜からだとその半分ほどの時間ですから、それが本当に核ミサイルなのかどうか、冷静に判断する余裕はありません。

政情不安定な地域への核の拡散、核テロの可能性も高まっています。米口のような核大国といえども、核テロには核抑止力はまったく効果はありません。プルトニウムのような危険な核物質を通常火薬で爆発させる「汚い爆弾」が使用される可能性もあります。たった1個の核兵器が地球上のどこかで使われたとすれば、影響はその地域だけにとどまりません。グローバル化した世界の経済は、大混乱に陥るでしょう。特に資源小国で貿易立国の日本は、より一層影響を受けることになります。このように人類は今も核の脅威に直面して

おり、核廃絶か破滅かの重大な岐路に立っていると言えるでしょう。

こうした中で、日本では核兵器を保有した北朝鮮や軍事増強を続ける中国の脅威が盛んに言われるようになりました。この状況に対して、日米軍事同盟強化の必要性を説いたり、一部には「日本も核武装すべきだ」といった声まで聞こえてくるようになってきました。私たちはこういうときこそ、広島・長崎の被爆体験の意味を深く考える必要があります。原爆慰霊碑に刻まれた「過ちは繰り返させぬから」という碑文に込められた意味、広島「の原点」を見つめ直す必要があると思います。

戦後、広島の初代公選市長となった濱井信三さんが自身の被爆体験を交え、廃虚から復興する過程や核廃絶・平和への思いをつづった「原爆市長」という本があります。もともと1955年に中国新聞夕刊に「市政秘話」と題して74回にわたって連載されたものです。昨年11月には英語版も発刊されました。ここに広島の原点の精神が宿っています。

1947年の8月6日に初めて開かれた「平和祭」で濱井市長は、「平和宣言」の中で次のように訴えました。

「この恐るべき兵器は恒久平和の必然性と真実性を確認せしめる『思想革命』を招来せしめた。すなわちこれによって原子力をもって争う世界戦争は、人類の破滅と文明の終末を意味するという真実を、世界の人びとに明白に認識せしめたからである。これこそ絶対平和の創造であり、新しい人生と世界の誕生を物語るものでなくてはならない。われらは何か大事にあった場合、深い反省と熟慮を加えることによって、ここから新しい真理と道を発見し、新しい生活を営むことを知っている。しかりとすれば、今われらがなすべきことは全身全霊をあげて平和への道を邁進し、もって新しい文明へのさきがけとなることでなければならない」

第2次世界大戦中、ルーズベルト米大統領に手紙を送り、原爆開発を勧めた物理学者のアルバート・アインシュタイン博士は、1946年に自省を込め次のように言っています。

「解き放たれた原子の力はすべてを変えてしまったが、唯一変わらないのはわれわれの考え方である。それゆえ、われわれは未曾有の破滅的状况へと流されていく。もし人類が生き残ろうとするならば、われわれはまったく新しい考え方を身につける必要がある」

いみじくもアインシュタイン博士と濱井市長は、同じことを言っているのです。「思想革命」とい

うのは、戦争の歴史を繰り返してきた人類は、核兵器の登場によってもう戦争はできない、もしこれまでと同じ考え方なら人類も文明も滅びてしまうという警告です。そこには、国家利益や特定の民族、宗教などの利害を超えた人類全体の利益、グローバルインタレストが優先されています。広島「の被爆者、市民は、あの生き地獄の悲惨な体験の中から、人類全体の運命を考える『啓示』『ビジョン』を得たのです。憎しみや悲しみを超え、憎悪や暴力ではなく、和解と対話の精神が必要であることを訴え続けてきました。核兵器のない世界も、戦争のない世界も、相互信頼なしには達成できないからです。人類はまだその教訓を十分に学び得ていませんが、歴代のノーベル平和賞受賞者をはじめ世界の多くの政治指導者や市民らが被爆地広島・長崎の役割を高く評価するのはそのためです。

私はロータリー財団が掲げる目的や使命も、広島「の精神につながっていると思っています。国際ロータリーの現会長であるレイ・クリンギンスミス氏は、ロータリアンの役割を

「地域を育み、大陸をつなぐ」(Building Communities, Bridging Continents)と唱えています。具体的には、社会奉仕と職業奉仕を通じて地元の地域社会に貢献し、国際奉仕を通じて国や大陸を異にする海外のクラブと協力し、世界理解、親善、平和を広め、世界をより良い場所にしようとする考え方です。

ロータリークラブは、現在、166カ国にあると聞きましたが、被爆地にあるロータリークラブのみなさんは、大変大きな使命と役割を担っていると思います。これまでもみなさんは、核兵器廃絶・平和への願いを伝えるためのさまざまな取り組みや、海外からの広島訪問者を温かくもてなすなど国際親善にも貢献されてきました。これからも海外のクラブとも協力して、こうした面での貢献を積極的に果たしていただければと願っています。それが、世界の中での広島のステータスを高めることにもつながっていくに違いありません。

私たちも中国新聞紙面と「ヒロシマ平和メディアセンター」の日英両語のウェブサイトを通じて、核兵器廃絶・平和のために微力ながら貢献していきたいと考えています。

ご静聴ありがとうございました。

● 卓話予告

日時	テーマ
2/24(木)	国際奉仕部門クラブフォーラム パネルディスカッション「外国から見た日本・来て見つけた日本」